

成果指標				
成果指標	要保護児童地域対策協議会実務者会議の開催日数			
指標設定の考え方	関係機関のネットワーク化を図り、要保護児童の早期発見、一時保護及び見守りを行うために、随時要保護児童地域対策協議会実務者会議を開催する必要があるため、開催日を指標とする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	4	4	4	4
実 績	3	3	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	要保護児童対策地域協議会の各種会議を開催して各関係機関と連携を密にし、迅速かつ適切な要保護児童への対応ができた。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	A
		市民ニーズへの対応	5	
		市の関与の妥当性	5	
	有効性	事業の効果	5	A
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	5	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	定期的な実務者会議の開催や、個別ケース会議を随時開催し、関係機関との連携強化を図るとともに、要保護児童への迅速な対応を行うことができた。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題